

2023年6月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年8月10日

上場会社名 KeePer技研株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 6036 URL <http://www.keepercoating.jp/corp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 賀来 聡介
 問合せ先責任者 (役職名) 最高財務責任者 (氏名) 山下 文子 (TEL) 0562-45-5777
 定時株主総会開催予定日 2023年9月27日 配当支払開始予定日 2023年9月11日
 有価証券報告書提出予定日 2023年9月28日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期の業績 (2022年7月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | |
|----------|--------|------|-------|------|-------|------|-------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2023年6月期 | 17,042 | 18.7 | 5,475 | 26.5 | 5,470 | 26.5 | 3,957 | 27.9 |
| 2022年6月期 | 14,358 | 21.7 | 4,326 | 43.2 | 4,325 | 43.1 | 3,093 | 45.0 |

| | 1株当たり 当期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益 | 自己資本 当期純利益率 | 総資産 経常利益率 | 売上高 営業利益率 |
|----------|----------------|---------------------------|----------------|--------------|--------------|
| | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 2023年6月期 | 145.06 | — | 41.2 | 40.6 | 32.1 |
| 2022年6月期 | 113.41 | — | 45.5 | 41.1 | 30.1 |

(参考) 持分法投資損益 2023年6月期 ー百万円 2022年6月期 ー百万円

(2) 財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|----------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 2023年6月期 | 15,079 | 11,151 | 73.9 | 408.77 |
| 2022年6月期 | 11,858 | 8,039 | 67.8 | 294.71 |

(参考) 自己資本 2023年6月期 11,151百万円 2022年6月期 8,039百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動による キャッシュ・フロー | 投資活動による キャッシュ・フロー | 財務活動による キャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物 期末残高 |
|----------|----------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 2023年6月期 | 3,663 | △1,586 | △1,226 | 3,573 |
| 2022年6月期 | 3,221 | △1,349 | △669 | 2,721 |

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | | 配当金総額 (合計) | 配当性向 | 純資産 配当率 |
|--------------|--------|--------|--------|-------|-------|---------------|------|------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 | | | |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 百万円 | % | % |
| 2022年6月期 | — | 0.00 | — | 31.00 | 31.00 | 845 | 27.3 | 12.4 |
| 2023年6月期 | — | 0.00 | — | 43.00 | 43.00 | 1,173 | 29.6 | 12.2 |
| 2024年6月期(予想) | — | 0.00 | — | 50.00 | 50.00 | | 29.7 | |

3. 2024年6月期の業績予想 (2023年7月1日～2024年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------|--------|------|-------|------|-------|------|-------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 10,585 | 23.6 | 3,396 | 12.6 | 3,396 | 11.6 | 2,364 | 13.3 | 86.66 |
| 通期 | 21,137 | 24.0 | 6,602 | 20.6 | 6,602 | 20.7 | 4,595 | 16.1 | 168.44 |

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2023年6月期 | 28,280,840 株 | 2022年6月期 | 28,280,840 株 |
| ② 期末自己株式数 | 2023年6月期 | 1,000,660 株 | 2022年6月期 | 1,000,516 株 |
| ③ 期中平均株式数 | 2023年6月期 | 27,280,251 株 | 2022年6月期 | 27,280,409 株 |

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日において、当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき策定したものであり、実際の業績等は様々な要因により予測数値より大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P7「1. 経営成績等の概況(4)今後の見通し」をご参照下さい。

○添付資料の目次

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. 経営成績等の概況 | 2 |
| (1) 当期の経営成績の概況 | 2 |
| (2) 当期の財政状態の概況 | 6 |
| (3) 当期のキャッシュ・フローの概況 | 6 |
| (4) 今後の見通し | 7 |
| 2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 | 9 |
| 3. 財務諸表及び主な注記 | 10 |
| (1) 貸借対照表 | 10 |
| (2) 損益計算書 | 12 |
| (3) 株主資本等変動計算書 | 14 |
| (4) キャッシュ・フロー計算書 | 16 |
| (5) 財務諸表に関する注記事項 | 17 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 17 |
| (セグメント情報等) | 17 |
| (持分法損益等) | 20 |
| (1株当たり情報) | 20 |
| (重要な後発事象) | 20 |

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度(2022年7月1日から2023年6月30日)における我が国の経済は、資源高の影響などによるコスト上昇が継続するなか、個人消費や設備投資の拡大が持続するなど総じて緩やかな回復基調を辿っているものの、続く円安や長引くウクライナ情勢など、景気の先行きは依然として不透明な状態が続いております。

このような環境の中、当社では、ユーザーに提供されるKeePerコーティングの品質の維持・向上を従来以上に実現していくことが、当面の業績を向上させるだけでなく、将来に向けての発展を目指したKeePerのブランディングを確実にしていくために最も重要であると考えています。

2023年6月期 実績

当事業年度(2022年7月から2023年6月)における売上高は170億42百万円(前年同期比18.7%増加)、営業利益は54億75百万円(同26.6%増加)、経常利益は54億70百万円(同26.5%増加)、当期純利益は39億57百万円(同27.9%増加)と過去最高益を更新する事が出来ました。

尚、中期経営計画の初年度にあたる2023年6月期の会社計画比では、キーパーラボ新店オープン時期が遅れた事により、売上が若干足りず計画比98.9%となりましたが、経常利益は新店オープン時期が遅れた事で、広告費などの一般販売管理費が抑えられ、計画比100.1%となりました。

「嗜好品のコーティングから、日用品のKeePerへ」

2023年6月期はKeePerを車好きの嗜好品としてだけではなく、女性を中心としたユーザーにKeePerを幅広く広め、「日常的に使う、当たり前な日用品に」を大きな目標として1年がスタートしました。

そのために、まず新しい商品として「勝手にキレイ」を商品コンセプトとした「フレッシュキーパー」の発売開始いたしました。

今までのKeePerの性能はもちろん維持し、「雨が降れば、まるで洗車をしたようにキレイに」なる性能も加えて、洗車の手間を省き、節約にもなる実用的な機能を持ち合わせています。この機能は誰にとっても便利で楽になるもので、フレッシュキーパーは嗜好品ではなく、実用的な便宜性を持った実用品、日用品といえるはずで、さらに価格帯もSサイズでお求めやすく2万円台に設定しました。

まず初めに、9月からキーパーラボで先行発売として開始し、お客様の反応と施工方法の確認をし、万全の態勢でキーパープロショップやキーパー施工店に10月から展開を開始しました。

発売早々から手応えがあり、大々的なプロモーションなどはおこなっていませんでしたが、キーパープロショップ店頭での声掛けやお客様に口コミが広がり、発売から3か月で約10万台の施工になるなど好調なスタートを切りました。

そして、2023年に入り「フレッシュキーパー」のプロモーションをスタートさせました。プロモーション第一弾として、キーパープロショップをはじめとするキーパー施工店にて、KeePerの新コンセプトである「勝手にキレイになる」のチラシ、約100万枚配布しました。

第二弾は、女性を中心としたユーザーに幅広く広めるために、4月から女性の視聴率が抜群に高い番組を選定し、「マツコの知らない世界」「家事ヤロウ!!」「ZIP!」の3番組で全国ネットのCM放映が始まりました。

加えて、フレッシュキーパーの専用 Web ページも立ち上げ、SNS を活用した本格的なプロモーションをスタートさせました。

このようなプロモーションの効果は早速表れ、「店頭でチラシを見て」「CMのコーティングを買いに来た」「SNSの口コミを見て」など「フレッシュキーパー」のサービスを買いに来られるお客様が多くなり、発売1年も経たずして、販売台数は30万台以上となりました。

この結果、フレッシュキーパーというサービスが、新しい顧客層を開拓でき、日常的に使うのが当たり前「日用品のKeePerへ」が広がる手応えを十分感じさせる1年となりました。

【キーパーラボ運営事業】

キーパーラボ運営事業において、上期は車の製造の遅れから、今お乗りの車へのリフレッシュ施工や中古車を購入された方の施工が増えました。下期においては、新車納車が始まり新車施工が俄然増加しました。

このように、業界がどのような状況においてもKeePerコーティングの需要があり、キーパーラボ運営事業の強さを再確認する事が出来ました。

2023年6月期の1年間のコーティングの施工台数を見てみると、EXキーパーは、施工台数が11,483台、売上として約18億1400万円、前年比22.5%増となり、高付加価値コーティングの伸びが一番の進捗率となりました。

ECOダイヤが加わったダイヤモンドキーパーシリーズは、施工台数が44,615台の前年比17.1%増、売上33億4300万円と大きく伸びております。また、クリスタルキーパーは60,093台(5.1%減)と新サービス「フレッシュキーパー」への移行がありますが、同じ耐久期間のタイプであるフレッシュキーパーと合わせると74,860台(18.2%増)となりました。各キーパーコーティングのメンテナンス需要も高まりをみせ27.9%増となりました。

加えて、洗車需要も向上し、総来店台数も11.7%増となりました。そして、平均単価も前期14,597円/台から今期15,980円/台と9.5%上昇しています。

(キーパーラボ新店開発)

新店開発においては、当初の計画通り12店舗の新規出店となりました。

| 店舗名 | 所在地 | オープン日 |
|----------|----------|-------------|
| 八王子店(移転) | 東京都八王子市 | 2022年9月26日 |
| 新座店 | 埼玉県新座市 | 2022年11月2日 |
| 小倉南店 | 福岡県北九州市 | 2022年11月26日 |
| 四日市南店 | 三重県四日市市 | 2023年3月30日 |
| 有明店 | 東京都江東区 | 2023年5月13日 |
| 松山インター店 | 愛媛県松山市 | 2023年5月31日 |
| 武蔵村山店 | 東京都武蔵村山市 | 2023年6月9日 |
| 各務原店 | 岐阜県各務原市 | 2023年6月22日 |
| 秋田南店 | 秋田県秋田市 | 2023年6月29日 |
| 用賀店 | 東京都世田谷区 | 2023年6月29日 |
| 福生店 | 東京都福生市 | 2023年6月30日 |
| 東大宮店 | 埼玉県さいたま市 | 2023年6月30日 |
| 伊勢崎店 | 群馬県伊勢崎市 | 2023年6月30日 |

しかし、新店オープンが12店舗といっても、期末の5、6月の2ヶ月間で9店舗オープンしており、計画的な出店が出来ておらず、現場に負担をかけてしまった事が反省すべき点です。今後は店舗部強化の課題も明確になり、改善が急務となっております。

また、新店トピックでは、5月にオープンしたキーパーラボ有明店が、「トヨタ」と「レクサス」の併設店舗「トヨタモビリティ東京(株)有明店/レクサス有明」にショップインショップの形態で、カーディーラーの建物内に独立した店舗運営を行っております。3台分のブースのみの運営で、オープン初月である5月は16日間の運営で524万円、6月では906万円と驚異的な実績を上げております。

トヨタ・レクサスの店舗の方からもコラボレーションした事で、キーパーラボのお客様がショールームでおくつろぎ中に、トヨタ・レクサス車のパンフレット見たり、車に試乗や触れる事も出来るなど、相乗効果が出ていると大きな反響をいただいております。

新たなビジネスモデルという事もあり、業界雑誌などにも取り上げられるなど注目度も高く、すでに他のトヨタ新車ディーラーからも同じような協業の話もいただいております。

そして、「板橋店」が2022年6月26日で一旦閉店し、移転候補地を探し続けましたが、1年を経っても最適な候補地を見つからず、大変残念ではございますが「板橋店」を閉店とさせていただきます。もちろん今後とも板橋区におけるラボ出店は、最重要エリアとして物件を探し続けていきます。これにより、キーパーラボ直営店舗数は、106店舗となりました。

また、キーパーラボのFC店は、新規出店が「弘前店」「西宮店」「熊本白山店」「大津店」の4店舗、FC店を脱退しキーパープロショップへの移行が「三島伏見店」「岡崎上和田店」「松山店」の3店舗で、FC店舗数は合計13店舗となり、2023年6月期末時点でのキーパーラボ店舗数は119店舗となりました。

(既存店舗の増設、改装)

キーパーの認知度アップと共に、EXキーパーを始めとする高付加価値コーティングの需要が大幅に上がっています。そのため、コーティングブースが不足する店舗が多く、ブース拡大を積極的に行いました。

また、今までは「洗い場」と「仕上げ場」を分けており、車を洗い終わったら、車を移動させ仕上げ場に移動していましたが、「移動中の事故防止」「作業効率向上」を考え、「洗い」「仕上げ」を同時に出来る改装工事を積極的に進めました。

| 店舗名 | 所在地 | ブース数の増設 | 洗って仕上げる作業場への改修 | 洗って仕上げる作業場を増設 | その他改修 |
|---------|------|---------|----------------|---------------|----------------|
| 浦和美園店 | 埼玉県 | 3→11台 | | | 新ブランディングへ変更(*) |
| 小牧山店 | 愛知県 | | | 3台 | |
| 守山店 | 愛知県 | 2→5台 | | | |
| 鈴鹿店 | 三重県 | 3→7台 | | | 新ブランディングへ変更(*) |
| 草加店 | 埼玉県 | 5→7台 | | | 新ブランディングへ変更(*) |
| 広島東雲店 | 広島県 | 3→6台 | | 2→3台 | |
| 高島平店 | 東京都 | 3→6台 | | 2→4台 | |
| 佐倉店 | 千葉県 | 2→4台 | | | |
| 甚目寺店 | 愛知県 | 3→5台 | 4台 | | |
| 春日井店 | 愛知県 | 3→8台 | | 3台 | |
| 安城店 | 愛知県 | | 4台 | | |
| 豊橋店 | 愛知県 | 3→6台 | | | |
| 蕨店 | 埼玉県 | 3→6台 | | 2台 | |
| 宝塚店 | 兵庫県 | 3→7台 | 4台 | | |
| 相模原淵野辺店 | 神奈川県 | 3→6台 | 3台 | | |
| 大須店 | 愛知県 | | | | 待合室の配置・設備の改修 |
| 鶴見店 | 大阪府 | 3→8台 | 3台 | | |
| 仙台長町店 | 宮城県 | 2→6台 | 3台 | | |
| 津店 | 三重県 | 5→7台 | 4台 | | |
| トレッサ横浜店 | 神奈川県 | 4→8台 | | | |
| 厚木店 | 神奈川県 | 7→11台 | 3台 | | |

(*) 新ブランディングへ変更：看板や建物、店舗の内外装のデザインを一新するプロジェクト（2016年9月より開始）

人員については、232名の純増（内、新卒採用:111名）を果たせた結果、人時生産性は7,328円/時と前年比1.3%増に止めることができました。これまで実施した増員やコーティングブースの増設、洗車・仕上げ場の車両の移動に関わる労力を最小限に減らすための工夫、断熱対策などの効果で、高付加価値コーティングが大きく増え、作業効率も上がっているため、人時生産性の高さに比して、スタッフの疲労度は低くなっています。

今後も新規出店と既存店の成長に伴う増員を予測に入れ、良い人材を、需要増に遅れることなく、精力的に行い、高過ぎる人時生産性に達することを極力防ぎ、お客様の満足に集中できる人員体制、職場環境の整備に注力をしていきます。

キーパーラボ運営事業のセグメント実績

このような活動の結果、売上高は96億58百万円（前年同期比21.9%増加）となり、当セグメントにおける営業利益は、25億85百万円（同17.1%増加）と増収増益となり、過去最高益を更新しました。

【キーパー製品等関連事業】

当事業において最も大きなシェアを占める石油販売業界は、原油高騰の影響も感じさせないほど、車での外出が増えており、店舗は給油作業で忙しい状況が続いています。当然、車を使うとなれば「車をキレイにしてお出かけしたい」

や「汚れた車をキレイに戻したい」など、コーティングや洗車需要が大きく向上しております。そんなベストなタイミングで新商品である「フレッシュキーパー」が、2022年10月に発売を開始しました。

機能と価格の両面から、女性のお客様に受け入れやすいと考えられたサービスなので、ガソリンスタンド主体のキーパープロショップでは、約半分の方が女性顧客であることもあり相性が良く、発売開始早々から多くの施工に繋がりました。

また、キーパープロショップの恒例行事である、キーパーコーティングの施工台数（ポイント）の合計で競い合う選手権を、2022年12月から「キーパー選手権」、全国のキーパー施工者の技術力向上のため、2023年4月から「第8回 キーパー技術コンテスト」を開催し、過去最大の3,665名(昨年は3,216名)の選手が出場されるなど、キーパーの需要拡大と共に、大きな盛り上がりを見せました。

（新車マーケット）

新車マーケットにおいては、「2023年3月31日より、株式会社ホンダアクセスでKeePerコーティングが純正品として取扱い開始」が始まりました。

ホンダ販売店に訪問すると「KeePerのような新しい技術を採用していて、BtoC向けのCMなどのプロモーションアピール力があるため、販売店側からすると心強い」と言われる事も多く、早いペースでの導入、そして施工台数増に繋がっております。

そして、増産体制をとっているトヨタの新車施工が本格的に始まっており、施工台数が着実に増加しております。加えて、「トヨタ」と「レクサス」の併設店舗「トヨタモビリティ東京(株)有明店/レクサス有明」にショップインショップの形態で運営している、キーパーラボ有明店でのお客様の反響や、ユーザーに認知度も高く人気があるKeePerコーティングの将来性を感じ、トヨタモビリティ東京(株)の新車ディーラー全店での導入が決定しました。

今までは、トヨタ新車販売店向けへのKeePer導入は、着実に進んでいるものの、大きな拡大には至っていませんでしたが、今後は、「KeePer LAB0」というBtoCビジネスを展開している、KeePer技研の大きな強みを生かすことで、新たな突破口が明確に見えてきました。

また、『SUBARU Wダイヤモンドキーパー』においては、発売から3年ほど経過し、高付加価値コーティングとして確実に定着しております。さらに2022年9月29日より、既販車・中古車向けボディコーティングとして「SUBARU ダイヤモンドKeePer」が発売されており、新車販売店からも、今までなかった分野でのコーティング市場という事で期待も大きく施工台数も着実に増加してきております。

さらに、新車施工から定期的なメンテナンスが可能であり、今後重要になってくるサービス収益が望める商品としてKeePerが目まされています。不安定な車の製造状況やコストアップなど、どのようなサービスで付加価値を上げていくか考える上で、KeePerのサービスがたくさんのお客様に喜んでいただき、再来店していただける商品として、新車販売会社の導入が増えております。

（自動車向けコーティング以外の事業）

車以外のサービスでは、スマートフォン用のコーティングやモーターサイクル業界、看板業界に続いて、自転車業界にも進出しました。今後はさらに家電販売業界、船舶、自動販売機などにも進出し始めており、KeePer製品の、販路の拡大を着実に進めております。

（海外事業）

海外事業においては、すでにキーパープロショップとして展開している、香港、タイ、台湾、ベトナムに加えて、韓国、メキシコでも日本での研修が終了し、2023年秋ごろにはキーパープロショップとして運営を開始いたします。

キーパー製品等関連事業のセグメント実績

このような活動の結果、売上高は73億84百万円（前年同期比14.7%増加）となり、当セグメントにおける営業利益は、内部取引控除後28億89百万円（同36.4%増加）となり、過去最高益を更新しました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当事業年度末における総資産は、前事業年度末に比べ32億21百万円増加し、150億79百万円となりました。これは主として、現金及び預金が8億52百万円増加、建物が9億75百万円増加したこと等によるものです。

(負債)

当事業年度末における負債合計は、前事業年度末に比べ1億9百万円増加し、39億28百万円となりました。これは主として、未払金が2億62百万円増加、買掛金が96百万円増加、未払法人税等が12百万円増加、契約負債が67百万円増加、借入金が3億79百万円減少したこと等によるものです。

(純資産)

当事業年度末における純資産は、前事業年度末に比べ31億11百万円増加し、111億51百万円となりました。これは主として、利益剰余金が当期純利益により39億57百万円増加した一方で、配当により8億45百万円減少したこと等によるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は前事業年度末に比べ8億52百万円増加し35億73百万円(前事業年度末比31.3%増加)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は36億63百万円(前事業年度比4億42百万円増加)となりました。収入の主な内訳は税引前当期純利益54億60百万円、減価償却費3億30百万円であり、支出の主な内訳は法人税等の支払額15億25百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は15億86百万円(前事業年度比2億36百万円増加)となりました。支出の主な内訳は有形固定資産の取得による支出11億20百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は12億26百万円(前事業年度比5億57百万円増加)となりました。支出の主な内訳は長期借入金の返済による支出3億79百万円、配当金の支払額8億45百万円であります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

| | 2019年6月期 | 2020年6月期 | 2021年6月期 | 2022年6月期 | 2023年6月期 |
|-------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 自己資本比率 | 64.9 | 68.2 | 60.6 | 67.8 | 73.9 |
| 時価ベースの自己資本比率 | 246.8 | 244.8 | 861.1 | 812.0 | 882.8 |
| キャッシュ・フロー対有利子負債比率 | 0.8 | 0.9 | 0.2 | 0.2 | 0.0 |
| インタレスト・カバレッジ・レシオ | 207.3 | 184.0 | 642.4 | 821.2 | 2,750.7 |

自己資本比率 : 自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債 / キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : キャッシュ・フロー / 利払い

(注) 1 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。

2 キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しています。

3 有利子負債は貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている負債を対象としています。

(4) 今後の見通し

KeePerブランドの確立と普及を目指し、さらに積極的な営業展開を進めていきます。

【キーパーラボ運営事業】

キーパーラボ運営事業においては、新規出店を15店舗の出店を計画している事に加え、KeePerの需要拡大と共に全国各地に広がっている、キーパープロショップ、カーディーラーへのサポート強化も考え、全国47都道府県に出店し、くまなくキーパーラボを広げて行きます。

(今後の新規出店予定)

現在決定している新規出店は下記のとおりです。

| 店舗名 | 所在地 | オープン予定日 |
|----------------|---------|-----------|
| 府中店 | 東京都府中市 | 2023年8月9日 |
| 大阪平野店（仮称） | 大阪府大阪市 | 2023年9月 |
| 岡山店（仮称） | 岡山県岡山市 | 2023年11月 |
| 越谷店（仮称） | 埼玉県越谷市 | 2023年12月 |
| 福岡早良店（仮称） | 福岡県福岡市 | 2024年1月 |
| 宇都宮店（仮称） | 栃木県宇都宮市 | 2024年1月 |
| 奈良大安寺店（仮称） | 奈良県奈良市 | 2024年3月 |
| 市川店（仮称） | 千葉県市川市 | 2024年3月 |
| 神戸西店（仮称） | 兵庫県神戸市 | 2024年3月 |
| 新・松戸東店（仮称）（移転） | 千葉県松戸市 | 2024年4月 |
| 堺西店（仮称） | 大阪府堺市 | 2024年5月 |
| 上尾店（仮称） | 埼玉県上尾市 | 2024年5月 |

引き続き、「ブース増設」や「作業効率向上を目的とした改装」など、既存店舗の拡大やリプレイスなど設備の充実を継続しておこなってまいります。

| 店舗名 | 所在地 | ブース数の増設 | 洗って仕上げる作業場への改修 | 洗って仕上げる作業場を増設 | その他改修 |
|--------------|------|---------|----------------|---------------|-------------|
| 福山店 | 広島県 | 3→6台 | 4台 | | |
| 大宮店 | 埼玉県 | 4→6台 | | 3台 | |
| 東郷店 | 愛知県 | 4→7台 | 3台 | | |
| 福井大和田店 | 福井県 | 4→9台 | 4台 | | |
| 松阪店 | 三重県 | 2→9台 | 2台 | | |
| 市原店 | 千葉県 | 3→6台 | | | |
| 八王子店 | 東京都 | 6→10台 | | 2台 | |
| 浦和美園店 | 埼玉県 | 3→5台 | 3台 | | |
| 鳴海店 | 愛知県 | 4→8台 | 4台 | | |
| 杉並店 | 東京都 | 4→6台 | | | |
| 足立店 | 東京都 | 7→12台 | | | 既存ゲストルームの拡張 |
| 上溝店 | 神奈川県 | 3→6台 | | | |
| 横浜トレーニングセンター | 神奈川県 | 6→10台 | | | |
| 尼崎店 | 兵庫県 | 4→7台 | | | |

店舗運営では、既に定着しつつある『予約システム』のさらに利便性の向上を図るため新機能の追加と共に、最終の動作確認、セキュリティ面のチェック中である「新POSシステム」の導入が控えております。

店舗が拡大していくうえで、組織体制も重要であり、複数の店舗を担当するマネージャー・課長職を中心とした体制

作りを構築し、これにより更なる店舗拡大が見込めます。店舗スタッフとのコミュニケーションを密にとり、お客様ニーズの発掘と人材育成にも力を入れ、技術・知識を軸としたサービスの向上を図っていきます。加えて、150店舗体制を見据えて『副部長』という役職を新設し、複数の店舗を担当する各地のマネージャー・課長との緊密なコミュニケーションを通じて、運営力の強化も同時に図っていきます。

【キーパー製品等関連事業】

従来からのガソリンスタンド業界など車のアフターマーケットでの売上加えて、カーメーカーやカーディーラーなどの新車マーケットである自動車業界の拡大、そして、中古車販売店、カーショップ、自動車整備業、板金業など、あらゆる自動車関連企業へのコーティングビジネスの拡大を図っていきます。

まず、すでにキーパープロショップ、キーパー施工店で好調であるフレッシュキーパーをさらに拡大させるべく、営業活動が大きな軸になります。フレッシュキーパーの技術研修は、非常に人気があり開催数を増設し、多くの技術者を育成していきます。また、KeePerコーティングの品質の維持・向上を目的に年2回実施している「キーパープロショップの全店チェック」において、フレッシュキーパーの技術力向上は当然のことながら、正しく施工が行われているかの徹底も強化していきます。

そして、KeePer施工者の技術力向上を目的に開催されている「キーパー技術コンテスト」は、9月からは「県チャンピオン決定戦」、10月には「全日本チャンピオン決定戦の開催」が控えております。加えて、12月にはキーパーの施工台数をポイント換算して競い合う「キーパー選手権」など、最需要期である12月の年末に向け、企画が目白押しで予定されております。

（新車マーケット）

新車マーケットにおいては、既に純正採用になっている「スバル」「トヨタ」「ホンダ」の販売店に向けて、KeePerのボディコーティング拡大が営業活動の大きな軸となってきます。

まず、「トヨタ」においては、ケミカル販売のみの営業を進めていく訳ではなく、既に実証済みである「キーパーラボ有明店のモデルのような」、KeePer技研の強みである「KeePer LABO」を新車販売店舗内にオープンさせ、新車コーティング増大だけではなく、定期的な来店とメンテナンス収益が見込めるよう、両社にとってWIN-WINになれるようなビジネスモデルを構築していきます。

「ホンダ」においては、早いペースでの導入が進んでいる事もあり、今後は、店舗での商品説明会の強化、販促ツールの強化をおこなっていき、今期スタート1年目で、新車販売台数の10%をKeePerコーティングにすべく活動をおこなっていきます。

「スバル」においては、引き続き店舗向けのサポート強化と同時に、新たに追加された3つのラインアップの更なる拡大に向け最新のコーティング提案を図っていきます。

KeePerの新車マーケット拡大に向け、それ以外の新車自動車メーカーへの営業活動も引き続き強力に進めてまいります。

（海外事業）

海外事業については、今までの向こうから来た話を進めていただけていますが、今後は、国内カーメーカーの海外ディストリビューターが運営するカーディーラーにターゲットを合わせ、積極的にルート拡大を図っていきます。

そのために、上層幹部を軸とした体制を整え、今年1年間を準備期間として海外事業への活動を開始いたします。営業費用としての人件費や海外渡航費も予算計上しております。

（自動車向けコーティング以外の事業）

自動車向けコーティング以外の展開については、大手ホームセンターとの親密な関係により、今後は家庭用品周りのラインアップが進んでいきます。

モバイル向けのコーティングは「KeePerコーティング for docomo select」のみならず通信事業者への拡大と共に、家電量販店への活動も進めていきます。

ゴルフなどのスポーツ用品、自動販売機などの需要も高まっており、今までの成功体験に固守せず、色々なものをキレイを守るために外販営業を進めていきます。

また、2023年9月には「KeePer公式ECサイト」を立ち上げます。スタート時には、「シャンプー」「虫取り」や「洗車

道具」などを掲載販売する予定です。その後はサイト上で決済が可能な利便性を考え、コーティングチケットなども販売していきたいと考えております。ユーザーもサイト内で決済が出来、かつコーティングをプレゼントが出来るようになるはずです。

(環境対策)

環境対策として、コーティング製品の機能・性能を落とすことなく、「VOC（有機溶剤）」を除いた製品開発に成功しました。今後は順次全てのエアゾールからVOCを除いた、環境や人体にやさしい製品を提供してまいります。

2024年6月期の見通し

以上を踏まえ、翌事業年度の見通しを、売上高211億37百万円（当事業年度比24.0%増加）、営業利益66億2百万円（当事業年度比20.6%増加）、経常利益66億2百万円（当事業年度比20.7%増加）、当期純利益は45億95百万円（当事業年度比16.1%増加）の増収増益を見込んでおります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は日本基準に基づき財務諸表を作成する方針であります。

なお、IFRS（国際財務報告基準）の適用に関しましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2022年6月30日) | 当事業年度 (2023年6月30日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,721,463 | 3,573,825 |
| 受取手形 | 168,918 | 185,863 |
| 売掛金 | 1,157,351 | 1,356,868 |
| 商品 | 706,006 | 1,163,271 |
| 貯蔵品 | 68,489 | 85,746 |
| 前渡金 | - | 200 |
| 前払費用 | 189,880 | 255,878 |
| その他 | 17,324 | 53,977 |
| 貸倒引当金 | △265 | △159 |
| 流動資産合計 | 5,029,168 | 6,675,471 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物（純額） | 3,127,116 | 4,102,480 |
| 構築物（純額） | 201,894 | 250,830 |
| 機械及び装置（純額） | 66,082 | 60,964 |
| 車両運搬具（純額） | 22,292 | 33,292 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 130,607 | 191,094 |
| 土地 | 2,016,836 | 2,016,836 |
| 建設仮勘定 | 63,609 | 76,509 |
| 有形固定資産合計 | 5,628,439 | 6,732,008 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 46,495 | 74,009 |
| その他 | 61,048 | 55,240 |
| 無形固定資産合計 | 107,543 | 129,249 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 19,388 | 20,364 |
| 関係会社株式 | 1,000 | 1,000 |
| 関係会社長期貸付金 | - | 280,614 |
| 破産更生債権等 | 13 | - |
| 長期前払費用 | 36,733 | 43,451 |
| 敷金及び保証金 | 364,218 | 511,654 |
| 建設協力金 | 291,760 | 277,799 |
| 保険積立金 | 11,460 | 11,460 |
| 繰延税金資産 | 368,995 | 396,797 |
| その他 | 10 | 10 |
| 貸倒引当金 | △13 | - |
| 投資その他の資産合計 | 1,093,566 | 1,543,152 |
| 固定資産合計 | 6,829,550 | 8,404,410 |
| 資産合計 | 11,858,718 | 15,079,882 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2022年6月30日) | 当事業年度 (2023年6月30日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 359,263 | 455,905 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 379,936 | 48,000 |
| 未払金 | 422,871 | 685,592 |
| 未払法人税等 | 923,770 | 935,772 |
| 未払費用 | 312,764 | 271,150 |
| 賞与引当金 | 47,169 | 54,859 |
| 契約負債 | 163,526 | 231,297 |
| その他 | 155,884 | 131,440 |
| 流動負債合計 | 2,765,187 | 2,814,019 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 160,000 | 112,000 |
| 退職給付引当金 | 370,913 | 426,714 |
| 役員退職慰労引当金 | 256,683 | 270,969 |
| 資産除去債務 | 262,025 | 300,899 |
| その他 | 4,043 | 4,043 |
| 固定負債合計 | 1,053,665 | 1,114,626 |
| 負債合計 | 3,818,853 | 3,928,645 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,347,557 | 1,347,557 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 1,007,224 | 1,007,224 |
| 資本剰余金合計 | 1,007,224 | 1,007,224 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 4,931 | 4,931 |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 7,866,881 | 10,978,475 |
| 利益剰余金合計 | 7,871,812 | 10,983,406 |
| 自己株式 | △2,188,728 | △2,189,329 |
| 株主資本合計 | 8,037,865 | 11,148,858 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,999 | 2,378 |
| 評価・換算差額等合計 | 1,999 | 2,378 |
| 純資産合計 | 8,039,865 | 11,151,236 |
| 負債純資産合計 | 11,858,718 | 15,079,882 |

(2) 損益計算書

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日) | 当事業年度 (自 2022年7月1日 至 2023年6月30日) |
|-------------------|--|--|
| 売上高 | | |
| 商品売上高 | 6,436,501 | 7,384,417 |
| サービス売上高 | 7,921,713 | 9,658,505 |
| 売上高合計 | 14,358,214 | 17,042,923 |
| 売上原価 | | |
| 商品売上原価 | | |
| 商品期首棚卸高 | 731,453 | 706,006 |
| 当期商品仕入高 | 2,696,582 | 3,584,141 |
| 合計 | 3,428,036 | 4,290,147 |
| 商品期末棚卸高 | 706,006 | 1,163,271 |
| 売上原価合計 | 2,722,030 | 3,126,876 |
| 売上総利益 | 11,636,184 | 13,916,047 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 役員報酬 | 211,740 | 242,185 |
| 給料及び手当 | 2,746,076 | 3,310,092 |
| 賞与 | 634,356 | 578,114 |
| 退職給付費用 | 71,880 | 81,754 |
| 賞与引当金繰入額 | 47,169 | 54,859 |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 9,210 | 14,286 |
| 法定福利費 | 531,640 | 604,118 |
| 福利厚生費 | 31,622 | 83,718 |
| 旅費及び交通費 | 277,987 | 329,644 |
| 通信費 | 42,251 | 48,503 |
| 減価償却費 | 288,987 | 330,718 |
| 賃借料 | 797,228 | 848,100 |
| 保険料 | 14,132 | 15,618 |
| 水道光熱費 | 162,117 | 203,411 |
| 消耗品費 | 199,983 | 235,495 |
| 租税公課 | 148,724 | 161,390 |
| 試験研究費 | 36,754 | 55,394 |
| 運賃及び荷造費 | 157,011 | 169,932 |
| 事務用品費 | 13,918 | 16,663 |
| 広告宣伝費 | 377,136 | 434,594 |
| 支払手数料 | 191,164 | 235,631 |
| 貸倒引当金繰入額 | △48 | △106 |
| 車両費 | 105,588 | 123,246 |
| 業務委託費 | 106,353 | 126,017 |
| リース料 | 64 | 64 |
| その他 | 106,503 | 137,528 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 7,309,557 | 8,440,978 |
| 営業利益 | 4,326,627 | 5,475,068 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日) | 当事業年度 (自 2022年7月1日 至 2023年6月30日) |
|-----------------|--|--|
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,371 | 1,667 |
| 受取配当金 | 463 | 502 |
| 受取手数料 | 6,332 | 4,281 |
| その他 | 3,270 | 1,865 |
| 営業外収益合計 | 11,436 | 8,317 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 3,923 | 1,331 |
| 為替差損 | 8,390 | 11,076 |
| 貸倒引当金繰入額 | 13 | - |
| 雑損失 | 40 | 305 |
| 営業外費用合計 | 12,367 | 12,713 |
| 経常利益 | 4,325,696 | 5,470,672 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 5,454 | 2,064 |
| 特別利益合計 | 5,454 | 2,064 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 2,334 | 11,997 |
| 減損損失 | 5,137 | - |
| 特別損失合計 | 7,472 | 11,997 |
| 税引前当期純利益 | 4,323,678 | 5,460,739 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,306,353 | 1,531,422 |
| 法人税等調整額 | △76,658 | △27,966 |
| 法人税等合計 | 1,229,694 | 1,503,456 |
| 当期純利益 | 3,093,984 | 3,957,283 |

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2021年7月1日 至 2022年6月30日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-------|---------------------|-----------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | 利益準備金 | その他利益剰余金 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 |
| 当期首残高 | 1,347,557 | 1,007,224 | 1,007,224 | 4,931 | 5,392,781 | 5,397,712 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | | | | △74,275 | △74,275 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | 1,347,557 | 1,007,224 | 1,007,224 | 4,931 | 5,318,506 | 5,323,437 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | △545,608 | △545,608 |
| 当期純利益 | | | | | 3,093,984 | 3,093,984 |
| 自己株式の取得 | | | | | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | 2,548,375 | 2,548,375 |
| 当期末残高 | 1,347,557 | 1,007,224 | 1,007,224 | 4,931 | 7,866,881 | 7,871,812 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|---------------------|------------|-----------|------------------|----------------|-----------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 評価・換算差額等 合計 | |
| 当期首残高 | △2,188,286 | 5,564,207 | 2,419 | 2,419 | 5,566,627 |
| 会計方針の変更による累積的影響額 | | △74,275 | | | △74,275 |
| 会計方針の変更を反映した当期首残高 | △2,188,286 | 5,489,932 | 2,419 | 2,419 | 5,492,352 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | △545,608 | | | △545,608 |
| 当期純利益 | | 3,093,984 | | | 3,093,984 |
| 自己株式の取得 | △442 | △442 | | | △442 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | △420 | △420 | △420 |
| 当期変動額合計 | △442 | 2,547,932 | △420 | △420 | 2,547,512 |
| 当期末残高 | △2,188,728 | 8,037,865 | 1,999 | 1,999 | 8,039,865 |

当事業年度(自 2022年7月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

| | 株主資本 | | | | | |
|-------------------------|-----------|-----------|-----------|-------|---------------------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | 利益準備金 | その他利益剰余金 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 |
| 当期首残高 | 1,347,557 | 1,007,224 | 1,007,224 | 4,931 | 7,866,881 | 7,871,812 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | △845,690 | △845,690 |
| 当期純利益 | | | | | 3,957,283 | 3,957,283 |
| 自己株式の取得 | | | | | | |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | 3,111,593 | 3,111,593 |
| 当期末残高 | 1,347,557 | 1,007,224 | 1,007,224 | 4,931 | 10,978,475 | 10,983,406 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-------------------------|------------|------------|------------------|----------------|------------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券 評価差額金 | 評価・換算差額等 合計 | |
| 当期首残高 | △2,188,728 | 8,037,865 | 1,999 | 1,999 | 8,039,865 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | △845,690 | | | △845,690 |
| 当期純利益 | | 3,957,283 | | | 3,957,283 |
| 自己株式の取得 | △601 | △601 | | | △601 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額(純額) | | | 378 | 378 | 378 |
| 当期変動額合計 | △601 | 3,110,992 | 378 | 378 | 3,111,371 |
| 当期末残高 | △2,189,329 | 11,148,858 | 2,378 | 2,378 | 11,151,236 |

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日) | 当事業年度 (自 2022年7月1日 至 2023年6月30日) |
|-------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前当期純利益 | 4,323,678 | 5,460,739 |
| 減価償却費 | 288,987 | 330,718 |
| 減損損失 | 5,137 | - |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | △311 | △119 |
| 契約負債の増減額 (△は減少) | 56,886 | 67,770 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | 62,042 | 55,800 |
| 役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少) | 1,089 | 14,286 |
| 受取利息及び受取配当金 | △1,834 | △2,169 |
| 為替差損益 (△は益) | △1,727 | △908 |
| 支払利息 | 3,923 | 1,331 |
| 固定資産除売却損益 (△は益) | △3,119 | 9,932 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △279,307 | △216,462 |
| 棚卸資産の増減額 (△は増加) | 2,584 | △474,521 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | △108,919 | 96,641 |
| 前払費用の増減額 (△は増加) | 259 | △65,998 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | △124,572 | △17,839 |
| 未払費用の増減額 (△は減少) | 118,000 | △41,613 |
| その他 | 59,564 | △28,996 |
| 小計 | 4,402,360 | 5,188,591 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,845 | 2,169 |
| 利息の支払額 | △3,923 | △1,331 |
| 法人税等の支払額 | △1,178,852 | △1,525,568 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 3,221,430 | 3,663,860 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △1,347,242 | △1,124,843 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 57,868 | 6,014 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △29,467 | △39,736 |
| 貸付けによる支出 | △200 | - |
| 関係会社貸付けによる支出 | - | △280,614 |
| 貸付金の回収による収入 | - | 110 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | △27,114 | △159,086 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 3,332 | 11,650 |
| 建設協力金の支払による支出 | △31,900 | △7,000 |
| その他 | 25,279 | 7,325 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,349,444 | △1,586,181 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 長期借入れによる収入 | 340,000 | - |
| 長期借入金の返済による支出 | △463,332 | △379,936 |
| 自己株式の取得による支出 | △442 | △601 |
| 配当金の支払額 | △545,608 | △845,690 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △669,383 | △1,226,227 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 1,727 | 908 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 1,204,330 | 852,361 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,517,132 | 2,721,463 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,721,463 | 3,573,825 |

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の分配の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。当社は販売先別にセグメントを位置付け、一般顧客向け、事業者向けに包括的な戦略を立案し事業活動を展開しております。

従って当社は販売先別のセグメントから構成されており「キーパー製品等関連事業」「キーパーLABO運営事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「キーパー製品等関連事業」は自動車のコーティング用ケミカル製品をはじめとした、道具機器類の開発・製造、販売を行っております。「キーパーLABO運営事業」は一般のカー・ユーザー向けに自動車のコーティングを中心とした「車の美装を提供する店舗」をコンセプトとして「キーパーLABO」店舗を運営しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表を作成するために採用される会計処理の原則及び手続に準拠した方法であります。

報告セグメントごとの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場価格等を勘案して決定しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前事業年度(自 2021年7月1日 至 2022年6月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 財務諸表計上額 |
|----------------------------|-----------------|------------------|------------|-----------|------------|
| | キーパー製品等 関連事業 | キーパーLABO 運営事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 札幌営業所 | 320,777 | — | 320,777 | — | 320,777 |
| 仙台営業所 | 740,726 | — | 740,726 | — | 740,726 |
| 東京営業所 | 1,253,973 | — | 1,253,973 | — | 1,253,973 |
| 横浜営業所 | 575,353 | — | 575,353 | — | 575,353 |
| 名古屋営業所 | 1,389,982 | — | 1,389,982 | — | 1,389,982 |
| 大阪営業所 | 704,719 | — | 704,719 | — | 704,719 |
| 広島営業所 | 648,325 | — | 648,325 | — | 648,325 |
| 福岡営業所 | 802,643 | — | 802,643 | — | 802,643 |
| 東日本 | — | 4,127,555 | 4,127,555 | — | 4,127,555 |
| 西日本 | — | 3,794,158 | 3,794,158 | — | 3,794,158 |
| 顧客との契約から生 じる収益 | 6,436,501 | 7,921,713 | 14,358,214 | — | 14,358,214 |
| 外部顧客への売上高 | 6,436,501 | 7,921,713 | 14,358,214 | — | 14,358,214 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 829,993 | — | 829,993 | △829,993 | — |
| 計 | 7,266,494 | 7,921,713 | 15,188,208 | △829,993 | 14,358,214 |
| セグメント利益 | 2,118,869 | 2,207,757 | 4,326,627 | — | 4,326,627 |
| セグメント資産 | 2,049,642 | 6,118,675 | 8,168,317 | 3,690,400 | 11,858,718 |
| その他の項目 | | | | | |
| 減価償却費 | 69,750 | 219,237 | 288,987 | — | 288,987 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加 額 | 77,578 | 1,253,672 | 1,331,251 | 70,684 | 1,401,935 |

(注1) セグメント間の内部売上は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業部に対するものです。

(注2) セグメント資産の調整額は報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

(注3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社管理部門における取得額であります。

当事業年度(自 2022年7月1日 至 2023年6月30日)

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 財務諸表計上額 |
|----------------------------|-----------------|------------------|------------|------------|------------|
| | キーパー製品等 関連事業 | キーパーLABO 運営事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 札幌営業所 | 363,311 | — | 363,311 | — | 363,311 |
| 仙台営業所 | 827,571 | — | 827,571 | — | 827,571 |
| 東京営業所 | 1,479,654 | — | 1,479,654 | — | 1,479,654 |
| 横浜営業所 | 642,059 | — | 642,059 | — | 642,059 |
| 名古屋営業所 | 1,585,625 | — | 1,585,625 | — | 1,585,625 |
| 大阪営業所 | 854,851 | — | 854,851 | — | 854,851 |
| 広島営業所 | 703,727 | — | 703,727 | — | 703,727 |
| 福岡営業所 | 927,615 | — | 927,615 | — | 927,615 |
| 東日本 | — | 4,969,321 | 4,969,321 | — | 4,969,321 |
| 西日本 | — | 4,689,184 | 4,689,184 | — | 4,689,184 |
| 顧客との契約から生 じる収益 | 7,384,417 | 9,658,505 | 17,042,923 | — | 17,042,923 |
| 外部顧客への売上高 | 7,384,417 | 9,658,505 | 17,042,923 | — | 17,042,923 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 1,291,082 | — | 1,291,082 | △1,291,082 | — |
| 計 | 8,675,500 | 9,658,505 | 18,334,006 | △1,291,082 | 17,042,923 |
| セグメント利益 | 2,889,960 | 2,585,108 | 5,475,068 | — | 5,475,068 |
| セグメント資産 | 3,040,378 | 7,094,968 | 10,135,346 | 4,944,535 | 15,079,882 |
| その他の項目 | | | | | |
| 減価償却費 | 81,011 | 249,707 | 330,718 | — | 330,718 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加 額 | 14,570 | 1,364,141 | 1,378,712 | 112,804 | 1,491,517 |

(注1) セグメント間の内部売上は、キーパー製品等関連事業から、キーパーLABO運営事業部に対するものです。

(注2) セグメント資産の調整額は報告セグメントに帰属しない全社資産であります。

(注3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社管理部門における取得額であります。

(持分法損益等)

当社は非連結子会社としてKeePerロジスティクス株式会社を有しておりますが、同社は利益基準及び利益剰余金基準に照らして重要性の乏しい非連結子会社であるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

| 項目 | 前事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日) | 当事業年度 (自 2022年7月1日 至 2023年6月30日) |
|-------------------------|--|--|
| 1株当たり純資産額 | 294.71円 | 408.77円 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 113.41円 | 145.06円 |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 | — | — |

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前事業年度 (自 2021年7月1日 至 2022年6月30日) | 当事業年度 (自 2022年7月1日 至 2023年6月30日) |
|------------------|--|--|
| 1株当たり当期純利益金額 | | |
| 当期純利益(千円) | 3,093,984 | 3,957,283 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | — | — |
| 普通株式に係る当期純利益(千円) | 3,093,984 | 3,957,283 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 27,280,409 | 27,280,251 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。